

開講年度・学期	2017年度・後期	授業形態	講義
科目名	刑法第2部	科目ナンバー	JAPUB2207
英語表記	Criminal Law 2	担当教員	三島 聡
単位数	4		

### 科目の主題

刑法各論の講義

### 授業の到達目標

刑法典第2編に規定されている個別の犯罪の内容を明らかにすることを目的とします。

### 授業内容・授業計画

実務の運用にも配慮しながら、個々の犯罪が保護しようとしている利益（保護法益）や個々の犯罪の成立要件について検討します。具体的な例をあげながら、できるだけわかりやすく講義したいと思います。基本的に私のほうから説明しますが、ときに応じて、受講者のみなさんに質問をして答えてもらうようにする予定です。

時間の関係上、非常に重要だと思われる罪を採り上げ、やや詳細に検討します。

第1回	導入
第2回	刑法の基本原則（罪刑法定原則、行為原理、責任原理）
第3回	人の意義（人の始期）
第4回	人の意義（人の終期）・自殺関与罪・同意殺人罪（処罰根拠）
第5回	自殺関与罪・同意殺人罪（偽装心中など）
第6回	傷害罪、脅迫罪
第7回	逮捕監禁罪（概説）
第8回	逮捕監禁罪（保護法益、同意の効力など）
第9回	住居侵入罪（保護法益）
第10回	住居侵入罪（同意の効力など）
第11回	財産罪総論（財物性など）
第12回	財産罪総論（窃盗罪等の保護法益）
第13回	窃盗罪における不法領得の意思（概説）
第14回	窃盗罪における不法領得の意思（権利者排除意思）
第15回	窃盗罪における不法領得の意思（処分利用意思）
第16回	強盗罪（概説）
第17回	強盗罪（死者の占有など）
第18回	事後強盗罪
第19回	強盗致死傷罪
第20回	詐欺罪（概説）
第21回	詐欺罪（財産的損害）
第22回	詐欺罪（無意識の交付行為）

第 23 回	詐欺罪（その他）
第 24 回	放火罪（概説）
第 25 回	放火罪（公共の危険の意義）
第 26 回	放火罪（焼損の意義）
第 27 回	放火罪（公共の危険の認識）
第 28 回	公務執行妨害罪（概説）
第 29 回	公務執行妨害罪（職務執行の適法性など）
第 30 回	まとめ

### 事前・事後学習の内容

当該授業において次の授業で具体的に何を扱うかを示すようにしますので、基本書の当該部分の記述をあらかじめ読んでおいてください。そうすれば、授業で説明する内容がよく理解できるようになり、また、ノートも効率的にとれるようになります。他方、授業後は、当該授業で詳細に説明した事項について、基本書および補助教材で確認し整理しておいてください。

### 評価方法

成績評価は、基本的に期末試験によっておこないます。ただし、レポートを若干の加点要素にすることを考えています。この点は講義のなかで説明します。

### 受講生へのコメント

六法は講義にかならずもってきてください。また、何度も授業を休んでいるとついでこれなくなりますので、できるだけ欠席しないようにしてください。

前期開講の刑法第 1 部を履修していることが望ましいのですが、履修していなくても対応できるように授業をおこないます。

### 教材

厳密な意味で「教科書」を指定することはいたしません。比較的最近出版された「研究者」の手による刑法各論の基本書であれば、とくに問いません。ただ、それでは困るという人のために、松原芳博『刑法各論』（日本評論社、2016 年）を推薦しておきます。

補助教材として、西田典之ほか編『判例刑法各論〔第 6 版〕』（有斐閣、2013 年）を使用します。かならず購入してください。

参考文献として、さしあたり、曾根威彦＝松原芳博編『重点課題刑法各論』（成文堂、2008 年）、大塚裕史『刑法各論の思考方法<第 3 版>』（早稲田出版、2010 年、版元品切れ）、町野朔『刑法各論の現在』（有斐閣、1996 年、版元品切れ）、三島聡『刑事法への招待』（現代人文社、2004 年）〔刑事法全般〕をあげておきます。

教科書や参考文献については、初回の講義で説明します。教科書の選択に迷う人は、初回の講義後に購入するのでもかまいません。

### その他

### 履修可能最低年次

2 年次生以上